

大会要項

- 1

- (4) 個人の部は、男女とも高体連区分による各地区大会の参加校が、4校以下の場合には4名、5校～8校の場合には6名、9校～12校の場合には8名、13校～16校の場合には10名、17校～20校の場合には12名、21校～24校の場合には14名、25校以上の場合には16名とする。

11 参加資格

- (1) 選手は、学校教育法第1条に規定する高等学校（中等教育学校後期課程を含む）に在籍する生徒であること。
- (2) 全日本弓道連盟、並びに北海道高等学校体育連盟に加入している高等学校の生徒であること。なお、大会参加時には全日本弓道連盟登録ID番号が必要である。
- (3) 令和7年度在籍学年が第1学年・第2学年であること。ただし、同一学年での出場は1回限りとする。
- (4) 転校後6ヵ月未満の生徒は出場できない（外国人留学生もこれに準ずる）。ただし、一家転住の場合はこの限りではない。
- (5) 全日制・定時制・通信製の混成、及び男女の混成は認めない。
- (6) 統廃合の対象となる学校については、当該校を含む合同チームによる大会参加を認める。
- (7) 出場する選手はあらかじめ健康診断を受け、在学する学校の校長の承認を必要とする。

12 引率責任者

- (1) 引率責任者は当該校の教員で、監督は学校長の認めた教職員とする。ただし、監督については種目の特殊性を考慮し、申出により別途協議する。なお、引率責任者と監督が同一者の場合は教員とする。校長から引率を委嘱された「部活動指導員」（学校教育法施行規則第78条の二に示された者）も可とする。
- (2) 監督、引率教員、介添生徒、上記部活動指導員について、ID（身分証明書）を発行する。このIDの提示がなければ、本会場及び控室に立ち入ることはできないものとする。
なお、選手はゼッケンの着用によってIDの代わりとする。

13 競技内容

- (1) 種 目 近的競技
- (2) 種 別 女子の部・男子の部
- (3) 種 類 団体・個人
- (4) 規 格 的は霞的（36 cm）を使用する。団体・個人戦ともに3人立3射場 的間隔 180 cm

14 競技規則 （公財）全国高等学校体育連盟弓道競技規則、審判部細案および北海道高体連弓道競技規則による。

15 競技方法

- (1) 団体競技は次の通り行う。
 - ①予選は1人12射、合計36射を行ない、上位4チームを通過とする。
（同中の場合は1人1射ずつ、合計3射の競射を行なう。）
 - ②決勝は1人4射、合計12射のリーグ戦とし、組み合わせは抽選とする。
（同中の場合は予選に準じる。）
 - ③順位決定は次による。
 - (イ) 勝ち点の多いチーム。
 - (ロ) 勝ち点の同じ場合は、リーグ戦での合計的中数による。
 - (ハ) (ロ) により決しない場合は、当該チーム同士の対戦成績による。
 - (ニ) (ハ) により決しない場合は、予選での合計的中数による。
 - (ホ) なおかつ(ニ) により決しい場合は、1人1射の競射による。
- (2) 個人競技は次の通り行う。
 - ①予選は、1人8射を行い、男女とも5中以上を予選通過とする。
 - ②5中以上の者が出なかった場合は入賞者なしとするが、全国大会出場者を決める場合は、的中最上位者とする。また、同中者が出た場合は、射詰競射により決定する。
 - ③決勝は1射ずつの射詰競射により順位を決定する。的中を失った同位者の場合は、優勝および

全国出場者を決する以外は遠近競射により順位を決定する。競射においては、原則として9射目以降は24cm 星的を使用する。遠近競射による順位決定は射詰競射決定後に行う。

(3) 競技順序は次の通り行なう。(女子から実施する。)

1日目 ①個人予選1立目 ②個人予選2立目 ③団体予選1立目 ④個人決勝

2日目 ①団体予選2立目 ②団体予選3立目 ③団体決勝リーグ戦

(4) 矢返しは、4ツ矢が終わるごとに行い、1本ごとの矢返しは行わない。替矢は各選手2本用意すること。団体リーグ戦で同中競射になった場合の1本目、個人決勝の5本目、筈の損傷で矢番えができないとき等に使用する。

(5) 矢番え完了後の筈こぼれは無効とする。

(6) 怪我等で坐射ができない場合、参加申し込み時に所定の申請書を添えること。

(7) 競技時間の制限(団体競技のみ実施する。)

①本座において、進行係の合図によって始まり、最後の射手の離れで終わる。

②競技は個人戦の予選および団体戦の予選は立射とする。また、個人戦の決勝および団体戦のリーグ戦は坐射とする。1団体12射の行射制限時間を立射は6分以内、坐射7分以内とし、立射は5分30秒、坐射6分30秒で予鈴の合図をする。

③弦切れ、その他の事故が生じてても時間の延長はしない。ただし、審判の指示により競技が停止した時間は制限時間から除外する。追い越し発射は認めない。

④個人競技および順位決定戦等の時間制限のない場合は、「弦音打起し」の競技の間合いを原則とする。

⑤その他については進行係及び審判の指示に従うこと。

(8) 監督は替矢・替弦を持って控えに入る。

(9) 招集

ア 第3控において、選手・監督の確認、ゼッケンおよび服装、弓具の点検をする。

イ 第3控から第2控へ移動する際にいない選手は「その立」に限り失権とする。そのために団体に欠員が生じてても欠員のまま団体とする。

ウ 監督については12で定めた者とする。大会役員の関係上やむを得ない場合は生徒に代行させることも可とする。

16 選手の交代

(1) 立ち順は、参加申込書に記載された1番から3番までを1団体とし、選手の交代は登録者の中から3回まで認める。監督主将会議の際から受け付ける。(交代した選手の再出場は認める)ただし決勝リーグ戦進出校決定のための同中競射において交代は認めない。

(2) 選手の交代の届け出は所定の用紙に記入し、第3控に入る(次の競技の30分前)までに監督より交代受付へ届け出ること。

(3) 1回で2人を交代してもそれを1回と数える。また、交代後、再び選手として出場する時は、前の立ち順にこだわらない。

(4) 3回の交代をした後、選手に事故が生じ欠場する場合は、欠員のまま団体とする。

(5) 選手の交代によりゼッケンを替えてはならない。

(6) 個人競技の選手の変更は認めない。

17 競技上の諸注意

(1) 弓具

ア 選手は全国高等学校体育連盟弓道競技規則第13条に定められた弓具を使用すること。

イ 押手髯(指押手を含む)以外の補助具は原則として認めない。

ウ 髯の紐は危険防止のため小さく結び、止め具の使用は禁止する。

エ 弓具に照準・目印をつけてはならない。

オ 伝統的な押手補助具や傷部保護のための包帯、テーピングを除き、押手にはその他のものをつけてはならない。

* 伝統的な押手補助具としては、押手髯(拇指、人差指の2本指と拇指のみの1本指)がある。

* キネシオテープについては、テーピングとみなし使用を認める。

* サポーターの使用は手首以外の使用について認める。色は、白・黒・紺・ベージュの単色無

地とする。

- * 傷病や障害等のため、包帯やテーピングで手首を固定する必要がある場合は、監督が事前に大会本部へ申し出て使用させること。

(2) 服装

①選手

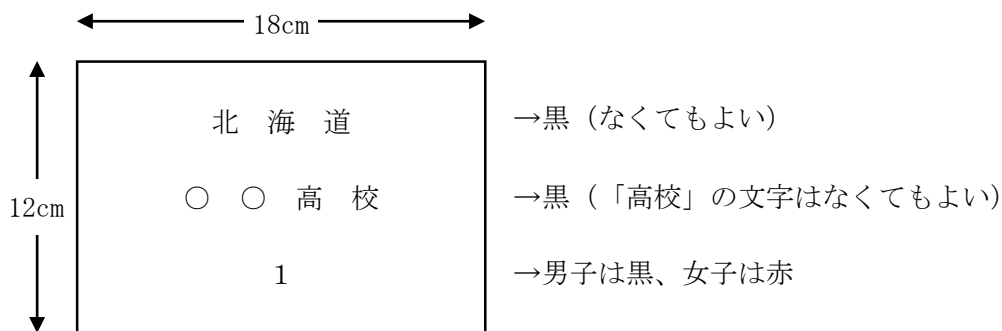
- ア 弓道衣・袴・足袋は単色無地とする。ただし、各学校で統一すること。
- イ 弓道衣のアンダーシャツは白・黒・紺の単色無地とし、それ以外の色を使用する場合は各校で統一する（個人競技の場合も同一校は競技種別でそろえる）こと。襟付き・ハイネックは、不可とする。
- ウ 弓道衣に校名・校章および都道府県のシンボルマークやワッペン等を付ける場合は、片袖に限る。ただし、大きさは、縦横 10 cm 以内にする。袴への刺繍等により校名・氏名を入れる場合は右腰後にする。
- エ 鉢巻を使用する場合は、無地で長さは肩までとする。また、校名・校章・氏名・番号に限り入れてもよいが場所は鉢巻の端とする。
- オ 胸当ては無地とし、校名・校章・その他を入れてはならない。男子の胸当ての使用は認めないが、道着の下に装着することまでは咎めない。
- カ リボン・ピアス等の装身具類は着用しない。

②監督

- ア 監督は監督章を首から下げる。
- イ 射場内での服装は、品位を保ち、短パン、ミニスカートの類は着用しない。
- ウ 射場内での素足は厳禁とし、靴下等を着用する。

(2) ゼッケン 選手は次によりゼッケンを着用する。

- ア 団体戦は、プログラムに登録された番号を表示したゼッケン（個人戦は学校名だけでよい）を右腰前に付ける。ただし、ゼッケンの左端が体の中央になるようにする。
- イ 選手の交代によりゼッケンを替えてはならない。
- ウ ゼッケンの記載は横 18 cm、縦 12 cm の白の布または紙を使用する。（布または紙をケースに入れることは可）
「北海道」学校名および男子の選手番号は黒、女子の選手番号は赤で記入する。



- (4) 施設内での壁・柱などを使用した弓張りは禁止とする。
- (5) フラッシュ撮影は禁止する。
- (6) 応援は、的中時の「よし」の掛け声と、皆中時の拍手のみとする。
- (7) 常に静粛な環境を維持するように相互に協力してください。
* その他、必要事項は、「必携 2024 年発行」（全国高等学校体育連盟弓道専門部）を参照のこと。また、「必携」は大会時に持参すること。

18 表彰等

(1) 表彰

- ①団体の部は、男女とも 4 位までとする。
- ②個人の部は、男女とも 5 位までとする。

(2) 全国大会出場権

- ①団体の部は、男女優勝校が全国選抜大会への出場権を獲得する。

②個人の部は、男女とも2位までの者が全国選抜大会への出場権を獲得する。

(3) 東日本大会出場権

男女団体優勝校は東日本高校弓道大会への出場権を獲得する。

19 申込方法 プログラム作成の都合上、必ず以下のようにしてください。(締切厳守をお願いします)

(1) 旭川実業高校のホームページより申込書等をダウンロードし、次のとおりに送付する。

ア 参加選手および参加料の明細を所定の申込用紙に記入して、メールで送信する。

9月26日(金) 厳守

イ 職印を押した申込書(立射の選手がいる場合は申請書)のPDFまたは画像データを、メールで送信する。職印を押した申込書は当日ご持参ください。ただし、メールの内容と記載内容が同じものであること(メールアドレスを優先します)。

9月29日(月) 厳守

ウ 参加料を次の口座に振り込む。

旭川信用金庫 末広支店 (店番号006) 普通口座0856691

旭川実業高等学校高文連当番校 代表 宮下靖広

9月29日(月) 厳守

(2) 坐射ができない場合は

ア 坐射ができない場合は、参加申込書の備考欄にその旨を記入するとともに、「立射申請書」(エクセルファイル)を参加申込書と一緒にメールで送信すること。申込み後に怪我等をした場合も速やかに申請すること。

イ 必ず事前に書類を提出すること。監督主将会議当日の口頭による申し込みは受け付けない。ただし、申込締切後に怪我等が発生した場合については監督会議前に書面で連絡すること。

※個人情報の取り扱いに関して

大会参加に関して提供される個人情報は、本大会活動に利用するものとし、これ以外の目的に利用することはありません。(詳しくは実施要領の「個人情報保護および肖像権に関わる取り扱いについて」を参照してください。)

20 申込先 メールアドレス k-matsuki@asahikawa-jitsugyo.ed.jp
申込書は旭川実業高校のホームページよりダウンロードしてください。
旭川実業高校HP URL <https://www.asahikawa-jitsugyo.ed.jp>

21 公式練習 旭川市東光スポーツ公園 武道館 10月13日(月) 13時00分～17時00分
10月14日(火) 個人表彰終了～17時30分
*選手は試合用の服装(必ずゼッケンを装着)で練習をすること。お互いに節度を守ること。
*練習の際は、必ず監督などの責任のある方が射場内につき、危険防止に留意すること。
*矢取りは、相互に協力して行うこと。

22 宿泊弁当 別紙「ご宿泊・お弁当のご案内(名鉄観光)」をご覧の上、お申し込みください。

23 その他

- (1) 競技は、個人戦ならびに団体予選は3人立ち3射場で行います。団体決勝リーグ戦は3人立2射場で行います。
- (2) 各支部の専門委員は、支部大会のプログラム(全ての成績を記録したもの)、および大会結果を9月26日(金)必着で、大会事務局と道高体連弓道専門部(札幌東陵高校山田先生)宛てに各1部ずつデータで送付してください。
- (3) プログラム作成の都合がありますので、参加申込・成績の送付は期日を厳守してください。
- (4) 入場行進は特に行ないません。開会式予定時刻までに武道場に集合してください。
なお、大会結果速報を大会期間中にWeb上にて公開します(予定)。

競技上の諸注意（補足）

- 1 射場に入場後、弓具（弓、矢および弦等）に不都合が生じた場合は交換することができる。ただし替弓具が準備してある場合に限る。
- 2 次の矢は無効とし、「はずれ」として処置する。
 - ①矢番え完了（弦に筈をかませた後、右手が腰に復した時点）後に、弦から筈が外れた場合。
 - ②打起し開始後引き直した矢。
 - ③同一射場において前の射手より先に発射した場合。ただし、前の射手が持ち矢を棄権した場合を除く。
 - ④団体競技で制限時間内に発射できなかった場合。なお同時発射も無効とする。
 - ⑤故意に他チームの行射を妨害したと審判委員が判定した場合。（妨害を受けた選手の引き直しまたは射直しは認める。）
 - ⑥審判委員の注意を無視して行射した場合。
- 3 弦切れの場合、4本目を除き、選手は射位に跪坐し、射場進行係が弓を取りに来るのを待つ。弓を渡した後、切れ弦の処理をする。4本目の場合はならいのごとく処理し退場する。
替弦は原則として監督が張るものとする。
- 4 弓を取り落とした場合、射場進行係の指示に従い処理をする。
- 5 射位にある射手は口頭、またはその他の方法で助言を求め、または受け取ってはならない。射手が本座または射位で不必要な声を発したり、他の射手に対して助言したりしてはならない。
- 6 会場内で不必要な声を発しないこと。観覧者は指定された観覧席から応援し、的中時の「よし」の発声と皆中時の拍手のみとする。
- 7 矢を落し失権となった矢は、他の選手の妨げとならないように拾って自分の右側に置く。
- 8 的中数は看的の○×？表示で示す。的中数に異議がある場合は、矢を抜く前に監督が射場進行係に挙手により申し出る。その後の申し出については受け付けない。
- 9 競技進行中における行射中止の指示は、的中前における赤旗の掲示と射場内における進行係の指示によって行うので、直ちに行射を中止すること。再開指示は赤旗を撤去、係が指示する。
- 10 個人競技、退場口の進行係の指示があった場合は、第3控席に待機する。
- 11 個人競技決勝の射詰・遠近法による競射の退場は進行係の指示に従うこと。
- 12 競技場内に第1控を設け、これより先を射場内とする。指定された第3控で点呼、弓具の点検を行うので競技進行に合わせて集合する。監督も含め第2控に移動するまでに集合しない場合は失格とする。
- 13 第3控では弓を弓立に置き待機し、第2控では弓を立てて待機する。
- 14 監督は、監督章をつけて替矢・替弦を持参して入場する。
- 15 計時について、立射5分30秒（坐射6分30秒）の振鈴で予告し、立射6分（坐射7分00秒）の振鈴によってその後の矢を失権とする。振鈴は本部席のストップウォッチを基に行う。
- 16 矢返しは、体験学習室に設置した矢立てで行うので、速やかに回収すること。
- 17 競技本部は放送席とし、選手交代については本部席横の交代受付に提出する。

※ 矢摺り籐の長さが6 cm未満のもの、あるいは損傷し、セロテープなどで補修している等の弓は使用しないでください。(弓具点検の際に、競技上危険または目印とみなしうる場合は、ガムテープを貼る場合があります。)

当番地区からの連絡

- (1) 武道場および体験学習室は土足厳禁です。
- (2) 外靴は、配布するビニール袋に入れて控室まで持参してください。袋は回収しませんので大会期間中ご利用ください。できるだけ、各チームで用意してくださいと幸いです。
- (3) 競技場内（武道場）では上靴・スリッパは履かないでください。
- (4) 選手の控場所は、体験学習室です。非常に狭いため、お互いに譲り合って使用してください。
- (5) 着替えは男女更衣室を利用してください。
- (6) 武道館内での壁面を使って弓を張ることを禁止します。選手同士で肩を貸しあうなどして弓を張ってください。その他の施設・備品の破損にも注意してください。
- (7) エントラスホールやトレーニング室、更衣室は市民の方が当日も使用しています。大声をあげたり、トレーニング室に入ったりしないでください。
- (8) 巻藁は武道場後ろ側に2台設置します。譲り合って事故のないように注意して使用してください。各校持ち込みの巻藁は、設置できません。
- (9) ゴミについては各自で持ち帰ってください。なお、業者斡旋の弁当は渡された場所が回収場所となります。
- (10) 部旗を貼る場所が会場にはありませんのでご了承ください。
- (11) 観客席の場所取りはご遠慮ください。お互いに譲り合って使用してください。
- (12) 敷地内禁煙にご協力ください。
- (13) フラッシュ撮影は高体連では認めていません。ご存知ない様子の観客がおいででしたら、一言声をかけてください。また、スマートフォンのライト点灯での撮影も競技の妨げになります。ご協力お願いします。
- (14) 今大会は合わせ紙を使用します。また的紙は裏に繊維の入ったビニールの紙を使用します。
- (15) 携帯電話・スマートフォンなどの着信音は競技の妨げになります。マナーモードにするか、電源をお切りください。
- (16) 東光スポーツ公園武道館の開館時間は8：00です。選手はそれ以前の入館ができません。
- (17) 各校監督・顧問は選手の健康管理の掌握、新型コロナウイルス感染症・麻疹・インフルエンザ等への対応もお願いします。
- (18) 駐車場係を配置しません。事故のないように互いに譲り合ってください。